

- ・やはり、一番懸念するのは「人口減・世帯減」と「高齢化」の問題で、多方面にわたっても地域発展というけれど、内容の充実面が個々、地域別のことを入っていない。
- ・現状の把握が不十分なのではないか、大局別に分けてあるが、枠づくりで、中身（例えば、人的、ソフト面）を充実か、再整備かなどが見えない。
- ・もっと地域別なら〇〇地区別や現在の問題点もあまり出されて検討していない。

良い点（良かった点）

- ・資料がカラーで十分準備されていること。
- ・前回委員会の振り返りを、しっかりと議論の前にしていること。
- ・ハードのフレームだけでなく、人がまちの中でどのように動くかという「人のダイナミズム」を表現できると画期的な都市マスになるという考え方が提案されたこと。

残念な点（希望・要望したい点）

- ・策定委員の中に女性が少ないこと。女性の視点・意見は、大事・貴重である。（行田版ウーマノミクスを育てたい。）
- ・策定委員会を夜間や土日に開催でいきないか。もっと多くの人に傍聴してほしいので。

全体的に

- ・行田市のウイークポイント（考えようによっては強みだが）である「交通」（歩く、自転車、新しい交通システム等）という視点・観点を最大の切り口として議論できないか。
- ・観光や環境と環境負荷の少ないという基本方針にも合致する持続可能なまちづくりを考えた場合、自然・再生可能なエネルギー（地域分散型）の視点も重要かと思う。スマートタウン・エコタウンなど。

その他

- ・大学と連携協働した新しい乗り物（人力・再生可能エネルギー）が行きかう“夢のある”まちにしたい。
- ・行田市の特性（高低差±3m）というまったく異なる地形を活かした交通システム・土地利用を。
- ・平成27年度には「武蔵水路」は「一級河川」となる。これは全国的にも例のない水辺が誕生するという。これを活かさない手はない。「川まちづくり」を全国に発信したい。

- ・マスタープラン策定委員会を行っている事を市民全体にケーブルテレビなどを通して放映された方が良いと思います。
- ・市民一人ひとりが主役のまちを目指すという点、現在のまちの状況等について認識をもって欲しい為、広報をするべきだと思います。
- ・人口減の状況で、住みたいまちにする為に何が悪いのかを考える事が必要です。

- ・市街化区域にしていくと、前提は人口増を期待しているのではないか、疑問である。
- ・歩いて暮らせる計画が、逆行している気がする。
- ・成長政策なしに実効は難しい。例え、人口が減っても、成長を考えるべき。
- ・企業誘致の政策、税対策を考えるべき。
- ・費用対効果は、どのようになっているか。

- ・課題、方針はすばらしく理解できるも、施策、取組が現実的に見えない。
- ・より具体的な事項にしぼり込んで欲しい。
- ・行政（市）は何を実施するのか、市民は何を協力していくのか、方針、方策の実施。
- ・また、近隣市町村（国・県も含めて）との調整検討項目事項等も発表してほしい。
- ・「将来の都市構造の要素」について、次のより具体的な方策が楽しみです。